

大学等名	帝塚山大学
プログラム名	データサイエンス・リテラシープログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違しない

③ 修了要件

「特別講義データサイエンス入門(2単位)」の単位を取得すること

必要最低単位数 2 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
特別講義(データサイエンス入門)	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
特別講義(データサイエンス入門)	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
特別講義(データサイエンス入門)	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
特別講義(データサイエンス入門)	2	○	○	○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
特別講義(データサイエンス入門)	2	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	「特別講義(データサイエンス入門)」(1回目)(2回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 「特別講義(データサイエンス入門)」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 「特別講義(データサイエンス入門)」(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス、・人間の知的活動とAIの関係性
	1-6	「特別講義(データサイエンス入門)」(4回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど) 「特別講義(データサイエンス入門)」(6回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	「特別講義(データサイエンス入門)」(3回目) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど ・1次データ、2次データ、データのメタ化 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション) ・データのオープン化(オープンデータ)
	1-3	「特別講義(データサイエンス入門)」(4回目) ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「特別講義(データサイエンス入門)」(4回目) ・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など、認識技術、ルールベース、自動化技術 「特別講義(データサイエンス入門)」(5回目) ・非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ 「特別講義(データサイエンス入門)」(9回目) ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など
	1-5	「特別講義(データサイエンス入門)」(5回目) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) 「特別講義(データサイエンス入門)」(7回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介

(4) 活用に応じた様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「特別講義(データサイエンス入門)」(14回目) ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス ・AIサービスの責任論・データ・AI活用における負の事例紹介
	3-2	「特別講義(データサイエンス入門)」(14回目) ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「特別講義(データサイエンス入門)」(9回目) ・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) 「特別講義(データサイエンス入門)」(11回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、観測データに含まれる誤差の扱い、打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ 「特別講義(データサイエンス入門)」(12回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)、母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)
	2-2	「特別講義(データサイエンス入門)」(7回目)(9回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) ・データの図表表現(チャート化) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)
	2-3	「特別講義(データサイエンス入門)」(10回目) ・データの集計(和、平均) ・データの並び替え、ランキング ・データ解析ツール(スプレッドシート) ・表形式のデータ(csv)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- (1) 身の回りにあるデータやAI(人工知能)の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさが実感できる。
- (2) 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力を身に付けられる。
- (3) 社会における様々な応用事例を知り、データ活用の際の倫理面およびセキュリティ面における重要性が理解できる。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
文学部	473	110	440	16	9	7	12	6	6	0			0			0			0			0			0			0			0			16	4%						
経済経営学部	876	210	840	87	60	27	61	38	23	0			0			0			0			0			0			0			0			87	10%						
法学部	406	95	380	8	4	4	7	3	4	0			0			0			0			0			0			0			0			8	2%						
心理学部	484	100	400	52	21	31	48	18	30	0			0			0			0			0			0			0			0			52	13%						
現代生活学部	767	190	760	44	10	34	38	8	30	0			0			0			0			0			0			0			0			44	6%						
教育学部	411	100	400	0	0	0	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0			0			0	0%						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合 計	3,417	805	3,220	207	104	103	166	73	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	207	6%						

大学等名 帝塚山大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 103 人 (非常勤) 292 人

② プログラムの授業を教えている教員数 2 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 日置 慎治 (役職名) 学長補佐(データサイエンス教育担当)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
データサイエンス教育推進委員会
(責任者名) 日置 慎治 (役職名) データサイエンス教育推進委員会 委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
データサイエンス教育推進委員会規程

⑥ 体制の目的
本委員会は、本学のデータサイエンス教育に関して以下の事項を審議するとともに、データサイエンス教育に関する情報を学部間で共有し、令和5年度以降に向けた全学的なデータサイエンス教育の改善等についても継続的に議論を行っている。

- (1) データサイエンス教育の調査研究に関する事項
- (2) データサイエンス教育の基本方針に関する事項
- (3) データサイエンス教育の導入及び展開に関する事項
- (4) データサイエンス教育の外部組織との連携に関する事項
- (5) データサイエンス教育の推進に係る自己点検・評価・改善に関する事項
- (6) その他データサイエンス教育全般に関する事項

⑦ 具体的な構成員

委員長	日置	慎治	(学長補佐(数理データサイエンス教育担当))
委員	飛世	昭裕	(副学長(教学担当))
委員	大西	智之	(全学教育開発センター長)
委員	向井	篤弘	(情報教育研究センター長)
委員	西尾	元伸	(文学部 准教授)
委員	川村	哲也	(経済経営学部 講師)
委員	関	誠	(法学部 准教授)
委員	河越	隼人	(心理学部 准教授)
委員	中	崇	(現代生活学部 准教授)
委員	杉村	智子	(教育学部 教授)
委員	島本	英一郎	(教学支援課長)
委員	中島	剛	(教学支援課長)
委員	本多	正樹	(情報教育研究センター課長)
委員	福田	雅実	(総務課長(東生駒キャンパス担当))
委員	南野	貴久	(学長室課長)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	6%	令和5年度予定	10%	令和6年度予定	25%
令和7年度予定	40%	令和8年度予定	50%	収容定員(名)	3,220
具体的な計画					
各年度の履修者数の累計目標は以下のとおりとする。(()内は履修率)					
令和5年度 320名(約10%)					
令和6年度 850名(約25%)					
令和7年度 1,250名(約40%)					
令和8年度 1,650名(約50%)					
令和4年度は「特別講義(データサイエンス入門)」を全学共通科目の特別科目群(選択科目)として開講しているが、他の科目群(語学科目群や専門科目群等)と比較すると、学生の履修率が低い状況であったことから、令和5年度からは科目名を「統計・情報E(データサイエンス入門)」へと変更するとともに、全共通科目の教養科目群(選択科目)として算入できるよう全学的なカリキュラムを変更した。					
また、学生に対しては履修ガイダンス時に本プログラムを紹介することで積極的な履修を促しており、教育方法については、授業アンケートの結果等を委員会でも共有し、より適切な教育を行えるよう継続的に検討していく計画である。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

特別講義(データサイエンス入門)は全学部が選択科目として受講可能な体制を整えており、履修ガイダンス等でも積極的に当プログラムについて周知を行っていることから、所属学部に関係なくすべての学生が履修可能となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修ガイダンス等で当プログラムの受講を学生に広く周知している。また、本学のHP上にも当プログラムに関するページを開設し、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。この様に学生が当プログラムに関する情報を容易に受け取れる環境を構築し、本プログラムへの関心を深められるようにしている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「特別講義(データサイエンス入門)」は、学部間の時間割編成の違いを考慮し、年間5クラスを異なる時間帯で開講している。このことから、学生は自身の時間割に合わせたクラスを履修することが可能であり、特定の時間帯のみに開講している科目と比べ、より多くの学生が「特別講義(データサイエンス入門)」を受講することが可能となっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

自習等において不明な点があれば、授業内容に関する質問は大学独自のe-ラーニングシステム「TALES」を利用する事で、担当教員にいつでも質問することができる。
また、情報処理上の質問に関しては、情報教育研究センターに専門スタッフが常駐しているため、必要に応じて学生からの質問に対応できるよう体制を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

データサイエンス教育推進委員会

(責任者名) 日置 慎治

(役職名) データサイエンス教育推進委員会 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和4年度の履修者は207名、修了者は166名(約80%)であった。未修了者の大半は定期試験等における成績不良が原因ではなく、授業回数の早い段階で授業への参加をしなくなった学生であり、継続して学習をおこなった学生は修了している。 このことから、令和5年度以降は特に学生が継続して学修を行えるよう、授業内容の見直しや授業外での学習支援をより一層充実させる予定である。
学修成果	令和4年度の「特別講義(データサイエンス入門)」の成績評価の平均点は71点(100点満点)であった。また履修者に対する修了者数は約80%であることから、履修者へは適切な指導が行われていると言える。 令和5年度移行については、成績や授業改善アンケートなどにより受講者の学修成果を把握を継続的に分析し、当プログラムの学修成果をより充実させる予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業改善アンケート(回答者数146名:回答率約70%)による「特別講義(データサイエンス入門)」の理解度に関する項目は以下の通りである。 ・「意欲的に取り組んでいるか」に対して「意欲的、ある程度意欲的」が約75% ・「到達目標に向けて力がついているか」に対して「力がついている、ある程度ついている」が約64% ・「総合的に、授業が自分に意義あるものか」に対して「意義ある、ある程度ある」が74% 以上のことから、多くの学生が当プログラムに意欲的に取り組んでいると言えるが、より効果的な学習内容となるよう、アンケート結果を踏まえて引き続き当プログラムの改善を進める予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	現時点では、授業改善アンケートには後輩等他者への推奨度を測る項目を設けていないが、令和5(2023)年度からは本教育プログラムの授業改善アンケートに他学生への推奨度について確認する項目を設け、アンケート結果を踏まえて授業内容の見直しを行う予定である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和5年度より、修了要件科目を特別科目群(選択科目)から教養科目群(選択科目)へと変更することで学生が受講しやすいプログラム構成へと変更するとともに、履修ガイダンス時に学生に対して引き続き積極的に告知することで、学生の受講を促進する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムを修了した卒業生はまだいないが、本学が行っている企業向けアンケートにより、プログラム修了者の卒業後の状況や就職先企業・団体からの評価を把握する計画である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学が例年実施している企業向けアンケートにおいて、本プログラムの内容や教育水準、教育手法について意見を求める設問を設けている。企業からはプログラムへの賛同的意見がほとんどであり、文系学部であってもデータサイエンス分野の知識が必要とされていることがわかる。これら企業等からの意見は、データサイエンス推進委員会へと報告し、プログラム内容等の改善に向けて活用している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業内容に可能な限り実社会における応用例を示すよう工夫しており、学生は社会に出たときに当プログラムをデータサイエンスの基礎として修得していることから、それらを用いて自身の業務等へすぐに応用できるようなカリキュラムとしている。 また、数理・データサイエンス・AIの応用例は多岐に渡るが、身近な応用例を知ることは「学ぶ楽しさ」に繋がり、ビジネス社会での事例は「学ぶことの意義」の理解につながると考え、それらを含む形でプログラム内容を適宜見直すこととしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	毎回の授業における学生の反応や質問、課題の達成度により、前回までの復習の説明に反映させることにより、わかりやすい授業内容となるよう工夫している。授業内では、2度のレポート提出を課しており、減点対象を学生にフィードバックすることにより理解の定着を図っている。 また、授業資料はすべてTALES(e-ラーニングシステム)で確認可能にしており、学生は復習等でこれらを活用することができ、加えてTALES上からいつでも担当教員に質問することが可能にしており、学生の理解を促進する仕組みを整えている。

基本情報

時間割コード	ZY2501	開講科目名	【東】特別講義（データサイエンス入門）-1
単位数	2	学年	1年
開講区分	前期	曜日時限	月4
担当教員名	足立 整治		
合併科目一覧			

詳細情報

1. 授業概要

近年のIT技術の進歩に伴い、これまでとは比較にならない量のデータが蓄積され、容易にアクセスできるようになってきた。こうした「ビッグデータ」を活用、分析し、有用な知見を得る営みをデータサイエンスという。数学的な詳細にこだわることなくデータサイエンスの本質を理解し、その重要性、将来性、面白さを実感できるような授業を目指す。

2. 到達目標

(1) 身の回りにあるデータやAI（人工知能）の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさが実感できるようになる。
(2) 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力が必要であると感じられるようになる。
(3) データサイエンス科目を、さらにもう少し勉強してみようと思うようになる。

3. 関連する授業科目

統計・情報A(ビジネス数学)、統計・情報B(ビジネスデータ分析)、統計・情報D(コンピュータ・リテラシー)、【東】特別講義(数理・データサイエンスA)、【東】特別講義(数理・データサイエンスB)

4. 授業方法

講義形式。配布資料、マルチメディア教材を元にしてディスカッションや提出された課題内容も取り入れた双方向的な授業を実施する。課題の提示、提出にはTALESを用いる。

5. 履修および予習・復習についての指示

毎回、予習として文献を読むなどの準備すべきことがらを指示する。さらに、講義内容を復習し、調査などの小レポート課題に取り組む。予習、復習には毎回それぞれ1時間45分程度、中間、最終レポートにはさらにそれぞれ3時間45分程度必要である。
※ 講義内容に関する質問等はTALES上で受け付ける。

6. 成績評価の方法と基準

授業内容をどの程度理解しているかを評価するため毎回の課題、中間レポート、最終レポートを課す。
・毎回の課題の評価(40%)。課題の解説は授業中に行なう。
・中間レポート、最終レポートの評価(30%×2)。採点して返却する。

7. テキスト

テキスト：なし。講義資料を配る。

8. 参考文献

適宜紹介する。

9. 授業計画

第1回 データサイエンスとは
これから学ぶデータサイエンスの概要について知ろう。

第2回 デジタル社会の歴史

コンピュータ、インターネットなどの歴史を知りデジタル社会の現状を理解しよう。

第3回 世の中にはどんなデータがあるのだろうか

いろいろな(ビッグ)データを覗いてみよう。

第4回 データサイエンスやAI(人工知能)で使われている技術とは？

アマゾンやNetflixのレコメンデーションシステムはどんな仕組みで動いているのだろうか。

第5回 データサイエンスやAIはどこで使われている？

データサイエンスやAIはネット空間だけでなく、自動運転、金融取引などの実社会でも使われつつあります。

第6回 データサイエンスやAIの最新動向は？

最近よく聞くディープラーニングとはどういうものだろうか。何に使えるのだろうか。

第7回 マルチメディアデータの使い方

画像データの特徴と表現方法、簡単な分析方法について知ろう。

siri や google アシスタントはどのようにして声を聞き取っているのだろうか。

第8回 中間のまとめ

これまでの授業を復習するとともに中間課題を発表する。

第9回 データの可視化方法

データに応じた棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの適切な可視化方法を知ろう。

第10回 統計学の基礎 その1ー 平均値、中央値、最頻値

データ全体をある一つの値で代表させ、中心的な傾向を捉えよう。

第11回 統計学の基礎 その2ー 散らばりの表現(分散と標準偏差)

データがどの程度ばらついているかを知り、全体的な姿を捉えよう。

第12回 統計学の基礎 その3ー 2変量データの分析(散布図と相関)

散布図とは何だろうか。2種類のデータに相関があるとはどういう意味だろうか。

第13回 統計学の基礎 その4ー 2変量データの分析(相関係数と回帰分析)

相関の程度や2変量間の関係性を定量的に表す方法を知ろう。

第14回 データやAIの利用で留意すべきこと

データ、データサイエンス、AIを利用する際に必要となる倫理、管理責任、アルゴリズムの公平性などについて知ろう。

第15回 最終のまとめ

これまでの授業を復習するとともに最終課題を発表する。

基本情報

時間割コード	ZY2502	開講科目名	【東】特別講義（データサイエンス入門）-2
単位数	2	学年	1年
開講区分	前期	曜日時限	水1
担当教員名	足立 整治		
合併科目一覧			

詳細情報

1. 授業概要

近年のIT技術の進歩に伴い、これまでとは比較にならない量のデータが蓄積され、容易にアクセスできるようになってきた。こうした「ビッグデータ」を活用、分析し、有用な知見を得る営みをデータサイエンスという。数学的な詳細にこだわることなくデータサイエンスの本質を理解し、その重要性、将来性、面白さを実感できるような授業を目指す。

2. 到達目標

- (1) 身の回りにあるデータやAI（人工知能）の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさが実感できるようになる。
- (2) 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力が必要であると感じられるようになる。
- (3) データサイエンス科目を、さらにもう少し勉強してみようと思うようになる。

3. 関連する授業科目

統計・情報A(ビジネス数学)、統計・情報B(ビジネスデータ分析)、統計・情報D(コンピュータ・リテラシー)、【東】特別講義(数理・データサイエンスA)、【東】特別講義(数理・データサイエンスB)

4. 授業方法

講義形式。配布資料、マルチメディア教材を元にしてディスカッションや提出された課題内容も取り入れた双方向的な授業を実施する。課題の提示、提出にはTALESを用いる。

5. 履修および予習・復習についての指示

毎回、予習として文献を読むなどの準備すべきことがらを指示する。さらに、講義内容を復習し、調査などの小レポート課題に取り組む。予習、復習には毎回それぞれ1時間45分程度、中間、最終レポートにはさらにそれぞれ3時間45分程度必要である。
※ 講義内容に関する質問等はTALES上で受け付ける。

6. 成績評価の方法と基準

授業内容をどの程度理解しているかを評価するため毎回の課題、中間レポート、最終レポートを課す。
・毎回の課題の評価(40%)。課題の解説は授業中に行なう。
・中間レポート、最終レポートの評価(30%×2)。採点して返却する。

7. テキスト

テキスト：なし。講義資料を配る。

8. 参考文献

適宜紹介する。

9. 授業計画

第1回 データサイエンスとは
これから学ぶデータサイエンスの概要について知ろう。

第2回 デジタル社会の歴史

コンピュータ、インターネットなどの歴史を知りデジタル社会の現状を理解しよう。

第3回 世の中にはどんなデータがあるのだろうか

いろいろな(ビッグ)データを覗いてみよう。

第4回 データサイエンスやAI(人工知能)で使われている技術とは？

アマゾンやNetflixのレコメンデーションシステムはどんな仕組みで動いているのだろうか。

第5回 データサイエンスやAIはどこで使われている？

データサイエンスやAIはネット空間だけでなく、自動運転、金融取引などの実社会でも使われつつあります。

第6回 データサイエンスやAIの最新動向は？

最近よく聞くディープラーニングとはどういうものだろうか。何に使えるのだろうか。

第7回 マルチメディアデータの使い方

画像データの特徴と表現方法、簡単な分析方法について知ろう。

siri や google アシスタントはどのようにして声を聞き取っているのだろうか。

第8回 中間のまとめ

これまでの授業を復習するとともに中間課題を発表する。

第9回 データの可視化方法

データに応じた棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの適切な可視化方法を知ろう。

第10回 統計学の基礎 その1ー 平均値、中央値、最頻値

データ全体をある一つの値で代表させ、中心的な傾向を捉えよう。

第11回 統計学の基礎 その2ー 散らばりの表現(分散と標準偏差)

データがどの程度ばらついているかを知り、全体的な姿を捉えよう。

第12回 統計学の基礎 その3ー 2変量データの分析(散布図と相関)

散布図とは何だろうか。2種類のデータに相関があるとはどういう意味だろうか。

第13回 統計学の基礎 その4ー 2変量データの分析(相関係数と回帰分析)

相関の程度や2変量間の関係性を定量的に表す方法を知ろう。

第14回 データやAIの利用で留意すべきこと

データ、データサイエンス、AIを利用する際に必要となる倫理、管理責任、アルゴリズムの公平性などについて知ろう。

第15回 最終のまとめ

これまでの授業を復習するとともに最終課題を発表する。

基本情報

時間割コード	ZY2503	開講科目名	【東】特別講義（データサイエンス入門）-3
単位数	2	学年	1年
開講区分	前期	曜日時限	金3
担当教員名	足立 整治		
合併科目一覧			

詳細情報

1. 授業概要

近年のIT技術の進歩に伴い、これまでとは比較にならない量のデータが蓄積され、容易にアクセスできるようになってきた。こうした「ビッグデータ」を活用、分析し、有用な知見を得る営みをデータサイエンスという。数学的な詳細にこだわることなくデータサイエンスの本質を理解し、その重要性、将来性、面白さを実感できるような授業を目指す。

2. 到達目標

(1) 身の回りにあるデータやAI（人工知能）の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさが実感できるようになる。
(2) 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力が必要であると感ぜられるようになる。
(3) データサイエンス科目を、さらにもう少し勉強してみようと思うようになる。

3. 関連する授業科目

統計・情報A(ビジネス数学)、統計・情報B(ビジネスデータ分析)、統計・情報D(コンピュータ・リテラシー)、【東】特別講義(数理・データサイエンスA)、【東】特別講義(数理・データサイエンスB)

4. 授業方法

講義形式。配布資料、マルチメディア教材を元にしてディスカッションや提出された課題内容も取り入れた双方向的な授業を実施する。課題の提示、提出にはTALESを用いる。

5. 履修および予習・復習についての指示

毎回、予習として文献を読むなどの準備すべきことがらを指示する。さらに、講義内容を復習し、調査などの小レポート課題に取り組む。予習、復習には毎回それぞれ1時間45分程度、中間、最終レポートにはさらにそれぞれ3時間45分程度必要である。
※ 講義内容に関する質問等はTALES上で受け付ける。

6. 成績評価の方法と基準

授業内容をどの程度理解しているかを評価するため毎回の課題、中間レポート、最終レポートを課す。
・毎回の課題の評価(40%)。課題の解説は授業中にこなす。
・中間レポート、最終レポートの評価(30%×2)。採点して返却する。

7. テキスト

テキスト：なし。講義資料を配る。

8. 参考文献

適宜紹介する。

9. 授業計画

第1回 データサイエンスとは
これから学ぶデータサイエンスの概要について知ろう。

第2回 デジタル社会の歴史

コンピュータ、インターネットなどの歴史を知りデジタル社会の現状を理解しよう。

第3回 世の中にはどんなデータがあるのだろうか

いろいろな(ビッグ)データを覗いてみよう。

第4回 データサイエンスやAI(人工知能)で使われている技術とは？

アマゾンやNetflixのレコメンデーションシステムはどんな仕組みで動いているのだろうか。

第5回 データサイエンスやAIはどこで使われている？

データサイエンスやAIはネット空間だけでなく、自動運転、金融取引などの実社会でも使われつつあります。

第6回 データサイエンスやAIの最新動向は？

最近よく聞くディープラーニングとはどういうものだろうか。何に使えるのだろうか。

第7回 マルチメディアデータの使い方

画像データの特徴と表現方法、簡単な分析方法について知ろう。

siri や google アシスタントはどのようにして声を聞き取っているのだろうか。

第8回 中間のまとめ

これまでの授業を復習するとともに中間課題を発表する。

第9回 データの可視化方法

データに応じた棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの適切な可視化方法を知ろう。

第10回 統計学の基礎 その1ー 平均値、中央値、最頻値

データ全体をある一つの値で代表させ、中心的な傾向を捉えよう。

第11回 統計学の基礎 その2ー 散らばりの表現(分散と標準偏差)

データがどの程度ばらついているかを知り、全体的な姿を捉えよう。

第12回 統計学の基礎 その3ー 2変量データの分析(散布図と相関)

散布図とは何だろうか。2種類のデータに相関があるとはどういう意味だろうか。

第13回 統計学の基礎 その4ー 2変量データの分析(相関係数と回帰分析)

相関の程度や2変量間の関係性を定量的に表す方法を知ろう。

第14回 データやAIの利用で留意すべきこと

データ、データサイエンス、AIを利用する際に必要となる倫理、管理責任、アルゴリズムの公平性などについて知ろう。

第15回 最終のまとめ

これまでの授業を復習するとともに最終課題を発表する。

基本情報

時間割コード	ZY2504	開講科目名	【東】特別講義（データサイエンス入門）-4
単位数	2	学年	1年
開講区分	後期	曜日時限	月2
担当教員名	日置 慎治		
合併科目一覧			

詳細情報

1. 授業概要

近年のIT技術の進歩に伴い、これまでとは比較にならない量のデータが蓄積され、容易にアクセスできるようになってきた。こうした「ビッグデータ」を活用、分析し、有用な知見を得る営みをデータサイエンスという。数学的な詳細にこだわることなくデータサイエンスの本質を理解し、その重要性、将来性、面白さを実感できるような授業を目指す。

2. 到達目標

- (1) 身の回りにあるデータやAI（人工知能）の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさが実感できるようになる。
- (2) 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力が必要であると感ぜられるようになる。
- (3) データサイエンス科目を、さらにもう少し勉強してみようと思うようになる。

3. 関連する授業科目

統計・情報A(ビジネス数学)、統計・情報B(ビジネスデータ分析)、統計・情報D(コンピュータ・リテラシー)、【東】特別講義(数理・データサイエンスA)、【東】特別講義(数理・データサイエンスB)

4. 授業方法

講義形式。配布資料、マルチメディア教材を元にしてディスカッションや提出された課題内容も取り入れた双方向的な授業を実施する。課題の提示、提出にはTALESを用いる。

5. 履修および予習・復習についての指示

毎回、予習として文献を読むなどの準備すべきことがらを指示する。さらに、講義内容を復習し、調査などの小レポート課題に取り組む。予習、復習には毎回それぞれ1時間45分程度、中間、最終レポートにはさらにそれぞれ3時間45分程度必要である。
※ 講義内容に関する質問等はTALES上で受け付ける。

6. 成績評価の方法と基準

授業内容をどの程度理解しているかを評価するため毎回の課題、中間レポート、最終レポートを課す。
・毎回の課題の評価(40%)。課題の解説は授業中に行なう。
・中間レポート、最終レポートの評価(30%×2)。採点して返却する。

7. テキスト

テキスト：なし。講義資料を配る。

8. 参考文献

適宜紹介する。

9. 授業計画

第1回 データサイエンスとは
これから学ぶデータサイエンスの概要について知ろう。

第2回 デジタル社会の歴史

コンピュータ、インターネットなどの歴史を知りデジタル社会の現状を理解しよう。

第3回 世の中にはどんなデータがあるのだろうか

いろいろな(ビッグ)データを覗いてみよう。

第4回 データサイエンスやAI(人工知能)で使われている技術とは？

アマゾンやNetflixのレコメンデーションシステムはどんな仕組みで動いているのだろうか。

第5回 データサイエンスやAIはどこで使われている？

データサイエンスやAIはネット空間だけでなく、自動運転、金融取引などの実社会でも使われつつあります。

第6回 データサイエンスやAIの最新動向は？

最近よく聞くディープラーニングとはどういうものだろうか。何に使えるのだろうか。

第7回 マルチメディアデータの使い方

画像データの特徴と表現方法、簡単な分析方法について知ろう。

siri や google アシスタントはどのようにして声を聞き取っているのだろうか。

第8回 中間のまとめ

これまでの授業を復習するとともに中間課題を発表する。

第9回 データの可視化方法

データに応じた棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの適切な可視化方法を知ろう。

第10回 統計学の基礎 その1ー 平均値、中央値、最頻値

データ全体をある一つの値で代表させ、中心的な傾向を捉えよう。

第11回 統計学の基礎 その2ー 散らばりの表現(分散と標準偏差)

データがどの程度ばらついているかを知り、全体的な姿を捉えよう。

第12回 統計学の基礎 その3ー 2変量データの分析(散布図と相関)

散布図とは何だろうか。2種類のデータに相関があるとはどういう意味だろうか。

第13回 統計学の基礎 その4ー 2変量データの分析(相関係数と回帰分析)

相関の程度や2変量間の関係性を定量的に表す方法を知ろう。

第14回 データやAIの利用で留意すべきこと

データ、データサイエンス、AIを利用する際に必要となる倫理、管理責任、アルゴリズムの公平性などについて知ろう。

第15回 最終のまとめ

これまでの授業を復習するとともに最終課題を発表する。

基本情報

時間割コード	ZY2505	開講科目名	【東】特別講義（データサイエンス入門）-5
単位数	2	学年	1年
開講区分	後期	曜日時限	金3
担当教員名	日置 慎治		
合併科目一覧			

詳細情報

1. 授業概要

近年のIT技術の進歩に伴い、これまでとは比較にならない量のデータが蓄積され、容易にアクセスできるようになってきた。こうした「ビッグデータ」を活用、分析し、有用な知見を得る営みをデータサイエンスという。数学的な詳細にこだわることなくデータサイエンスの本質を理解し、その重要性、将来性、面白さを実感できるような授業を目指す。

2. 到達目標

(1) 身の回りにあるデータやAI（人工知能）の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさが実感できるようになる。
 (2) 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力が必要であると感じられるようになる。
 (3) データサイエンス科目を、さらにもう少し勉強してみようと思うようになる。

3. 関連する授業科目

統計・情報A(ビジネス数学)、統計・情報B(ビジネスデータ分析)、統計・情報D(コンピュータ・リテラシー)、【東】特別講義(数理・データサイエンスA)、【東】特別講義(数理・データサイエンスB)

4. 授業方法

講義形式。配布資料、マルチメディア教材を元にしてディスカッションや提出された課題内容も取り入れた双方向的な授業を実施する。課題の提示、提出にはTALESを用いる。

5. 履修および予習・復習についての指示

毎回、予習として文献を読むなどの準備すべきことがらを指示する。さらに、講義内容を復習し、調査などの小レポート課題に取り組む。予習、復習には毎回それぞれ1時間45分程度、中間、最終レポートにはさらにそれぞれ3時間45分程度必要である。
 ※ 講義内容に関する質問等はTALES上で受け付ける。

6. 成績評価の方法と基準

授業内容をどの程度理解しているかを評価するため毎回の課題、中間レポート、最終レポートを課す。
 ・毎回の課題の評価(40%)。課題の解説は授業中に行なう。
 ・中間レポート、最終レポートの評価(30%×2)。採点して返却する。

7. テキスト

テキスト：なし。講義資料を配る。

8. 参考文献

適宜紹介する。

9. 授業計画

第1回 データサイエンスとは
 これから学ぶデータサイエンスの概要について知ろう。

第2回 デジタル社会の歴史

コンピュータ、インターネットなどの歴史を知りデジタル社会の現状を理解しよう。

第3回 世の中にはどんなデータがあるのだろうか

いろいろな(ビッグ)データを覗いてみよう。

第4回 データサイエンスやAI(人工知能)で使われている技術とは？

アマゾンやNetflixのレコメンデーションシステムはどんな仕組みで動いているのだろうか。

第5回 データサイエンスやAIはどこで使われている？

データサイエンスやAIはネット空間だけでなく、自動運転、金融取引などの実社会でも使われつつあります。

第6回 データサイエンスやAIの最新動向は？

最近よく聞くディープラーニングとはどういうものだろうか。何に使えるのだろうか。

第7回 マルチメディアデータの使い方

画像データの特徴と表現方法、簡単な分析方法について知ろう。

siri や google アシスタントはどのようにして声を聞き取っているのだろうか。

第8回 中間のまとめ

これまでの授業を復習するとともに中間課題を発表する。

第9回 データの可視化方法

データに応じた棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの適切な可視化方法を知ろう。

第10回 統計学の基礎 その1ー 平均値、中央値、最頻値

データ全体をある一つの値で代表させ、中心的な傾向を捉えよう。

第11回 統計学の基礎 その2ー 散らばりの表現(分散と標準偏差)

データがどの程度ばらついているかを知り、全体的な姿を捉えよう。

第12回 統計学の基礎 その3ー 2変量データの分析(散布図と相関)

散布図とは何だろうか。2種類のデータに相関があるとはどういう意味だろうか。

第13回 統計学の基礎 その4ー 2変量データの分析(相関係数と回帰分析)

相関の程度や2変量間の関係性を定量的に表す方法を知ろう。

第14回 データやAIの利用で留意すべきこと

データ、データサイエンス、AIを利用する際に必要となる倫理、管理責任、アルゴリズムの公平性などについて知ろう。

第15回 最終のまとめ

これまでの授業を復習するとともに最終課題を発表する。

履 修 要 項

2022

文 学 部

大学院 人文科学研究科

帝 塚 山 大 学

2022年度文学部日本文化学科カリキュラム表

・卒業所要単位：124単位

教養科目・言語リテラシー科目・特別科目（N21・N22）

区分 (卒業必要 単位数)	科目 コード	科 目 名	配当 年次	開講時期形態		単位数		担当者 ※担当者氏名の○内数字は、 開講クラス数を示す。(数字 表示がない場合は1クラス開 講)。なお、複数クラス開講 の場合はいずれか一つを選 択すること。
				前→前期 後→後期	過 当 り 授 業 回 数	必修	選択	
教養科目(8単位以上)	ZA30	統計・情報(コンピュータ・リテラシー)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：日置・外部委託講師 後：日置・外部委託講師
	ZA31	科学(科学の歴史)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：安井 後：足立
	ZA32	科学(生命科学)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：都留 後：都留
	ZA33	科学(環境科学)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：渡部 後：渡部
	ZA34	科学(行動科学)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：董 後：董
	ZA35	歴史・人文(哲学の世界)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：高原 後：高原
	ZA36	歴史・人文(芸術の世界)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：善田 後：善田
	ZA37	歴史・人文(文学の世界)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：恵阪 後：恵阪
	ZA39	社会・文化(情報と社会)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：旗 後：旗
	ZA40	社会・文化(異文化の理解)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：頼 後：頼
	ZA41	社会・文化(人権と社会)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：森 後：森
	ZA42	社会・文化(地域と社会貢献)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：草川 後：草川
	ZA43	社会・文化(教育)	1・2・3・4	前・後	週1回		2	前：高藤 後：高藤
	ZC01	スポーツ科学A	1・2・3・4	前	週1回		1	伊藤(麻)、本田、浦井
	ZC02	スポーツ科学B	1・2・3・4	後	週1回		1	伊藤(麻)、本田、浦井
	ZC03	スポーツ科学C	2・3・4	前	週1回		1	伊藤(麻)
	ZC04	スポーツ科学D	2・3・4	後	週1回		1	伊藤(麻)
言語リテラシー科目(8単位以上)	ZB10	英語A	1・2・3・4	前・後	週1回		1	前：菊川②、パウワー② 後：菊川③、パウワー
	ZB11	英語B	1・2・3・4	前・後	週1回		1	前：祐田、片渕、安川、池田 後：祐田、片渕、大橋、マラン
	ZB12	英語C	1・2・3・4	前・後	週1回		1	前：池田、シェフナー、片渕、 安川 後：安川、小谷、片渕、池田
	ZB13	英語D	1・2・3・4	前・後	週1回		1	前：大橋、吉岡、大橋、北本 後：大橋、吉岡、安川、北本
	ZB14	英語E	2・3・4	前・後	週1回		1	前：マラン 後：池田
	ZB15	英語F	2・3・4	前・後	週1回		1	前：パウワー 後：祐田
	ZB16	英語G	2・3・4	前・後	週1回		1	前：シェフナー 後：シェフナー
	ZB17	英語H	2・3・4	前・後	週1回		1	前：門口 後：奥村
	ZB18	英語S	1・2・3・4	後	週1回		1	小谷
	ZB20	大学英語入門	1・2・3・4	前	週2回		2	シェフナー・橋本
	ZB21	大学英語基礎	1・2・3・4	後	週2回		2	池田・マラン
	ZB30	中国語Ⅰ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	前：王・樋口 後：王・洪、川端・康
	ZB31	中国語Ⅱ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	大西・康
	ZB40	ハングルⅠ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	前：姜・黄 後：姜・黄、林・巖
	ZB41	ハングルⅡ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	林・巖
	ZB50	フランス語Ⅰ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	前：脇・藤本 後：脇・藤本
	ZB51	フランス語Ⅱ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	脇・藤本
	ZB60	スペイン語Ⅰ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	前：ソナン・寺本 後：ソナン・寺本
	ZB61	スペイン語Ⅱ	1・2・3・4	前・後	週2回		2	ソナン
特別科目	HZ62	ことばと異文化交流(日本語教育事情)	1・2・3・4	後	週1回		2	中島・河口・北本・川添・依田
	HZ63	日本語教材研究	3・4	後	週1回		2	2022年度不開講
	HZ64	日本語教授法	3・4	前	週1回		2	2022年度不開講
	HZ65	日本語教育実習(事前・事後指導含む)	4	前	集中		2	2022年度不開講
	HZ85	特殊講義(文化史入門)	1・2・3・4	前	週1回		2	関根
	HZ47	特殊講義(正倉院を知る)	1・2・3・4	後	週1回		2	牟田口
	HZ67	特殊講義(創作の書)	1・2・3・4	通年	週1回		2	喜多
	HZ71	特殊講義(実用の書A)	1・2・3・4	後	週1回		1	喜多
	HZ75	特殊講義(奈良の書道文化)	2・3・4	前	週1回		2	喜多
	HZ79	特殊講義(創作文芸・出版B)	2・3・4	後	週1回		1	西尾・後藤
	HZ81	特殊講義(創作を学ぶ)	2・3・4	前	集中		2	西尾・黒瀬・谷口・仁木・浜口
	HZ83	特殊講義(日本における生活文化の地域差)	1・2・3・4	前	週1回		2	川口
	HZ84	特殊講義(近代移行期の日本における生活文化)	1・2・3・4	前	週1回		2	川口
	HZ86	特殊講義(日本の伝統文化)	1・2・3・4	前	週1回		2	恵阪

- ・言語リテラシー科目Ⅰ、Ⅱについてはステップ制につき、Ⅰを修得しなければⅡを履修することができない。
 ・「特別科目」の修得単位は、「自由選択科目」として卒業所要単位に算入することができる。

3. 上記科目を修得した場合、「特別科目」として卒業に必要な単位に算入します。

4. 資格申請は卒業時のみ可能です。既卒生の資格申請はできません。

※年間履修単位数の制限に含まれます。

※不明な点は教学支援課（学部共通）に問い合わせてください。

【特別講義】

科目 コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数	担当者
			期間	1週間の 授業回数		
ZY05	特別講義（TOEIC 演習A）	2・3・4	前	週1回	2	小谷
ZY06	特別講義（TOEIC 演習B）	2・3・4	後	週1回	2	小谷
ZY07	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現A）	1・2・3・4	前	週1回	2	谷
ZY08	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現B）	1・2・3・4	後	週1回	2	谷
ZY13	特別講義（人間関係とコミュニケーション）	1・2・3・4	前・後	週1回	2	前：小西② 後：小西
ZY16	特別講義（身近な知的財産と法）	1・2・3・4	前	週1回	2	小柴
ZY17	特別講義（数理・データサイエンスA）	1・2・3・4	前・後	週1回	2	前：足立 後：足立
ZY18	特別講義（数理・データサイエンスB）	1・2・3・4	前・後	週1回	2	前：足立 後：足立
ZY25	特別講義（データサイエンス入門）	1	前・後	週1回	2	前：足立② 後：足立②
ZY27	特別講義（データサイエンス初級）	2・3・4	前	週1回	2	日置
ZY26	特別講義（リーダーシップ・キャリアスキル開発）	2・3・4	後	集中	2	小西

以下の科目は N21・N22のみ履修可

ZY19	特別講義（スポーツ医学）	1・2・3・4	前	週1回	2	福本
ZY22	特別講義（スポーツ指導論）	1・2・3・4	後	週1回	2	伊藤（麻）
ZY24	特別講義（スポーツマネジメント）	1・2・3・4	前	週1回	2	浦井・末吉
ZY20	特別講義（スポーツ栄養学）	1・2・3・4	後	週1回	2	成田
ZY21	特別講義（スポーツ心理学）	1・2・3・4	前	週1回	2	伊藤（麻）
ZY23	特別講義（スポーツ社会学）	1・2・3・4	後	週1回	2	浦井

※年間履修単位数の制限に含まれます。

※文学部の学生が上記科目を修得した場合、「特別科目」として卒業に必要な単位に算入します。

【他大学等での単位互換科目の履修について】

他大学等で開講されている科目を履修することができます。文学部の学生が単位を修得した場合は、「特別科目」として卒業に必要な単位に算入することができます。詳細については掲示で確認してください。



履 修 要 項

2022

經濟經營学部

帝 塚 山 大 学

2022年度 経済経営学部 その他科目（全学教育開発センター開講科目）

科目区分	科目コード	科目名	単位数		配当年次	開講形態		教職		担当者	
			必修	選択必修		前	後	必修	選択必修	前期	後期
※1 参照 キャリア形成 支援科目	ZI01	インターンシップⅠ		2	2・3・4	前	後			①②奥村(由)	③④⑤⑥奥村(由)
	ZI02	インターンシップⅡ		2	3・4	前				①②奥村(由)	—
	ZI10	キャリアデザインⅠ		2	1・2・3・4		後			—	①②谷
	ZI11	キャリアデザインⅡ		2	2・3・4	前				①②谷	—
	ZF01	TF(Tezukayama Family)講座		2	1・2・3・4	前	後			①岩井・小柴	②岩井・小柴
※2 参照 海外短期語学研修 受講学生適用科目	ZS80	特殊講義(海外文化事情Ⅰ・アメリカ)		4	1・2・3・4	集中(前期)				小谷	
	ZS81	特殊講義(海外文化事情Ⅱ・アメリカ)		4	2・3・4	集中(前期)				小谷	
	ZS86	特殊講義(海外文化事情Ⅰ・中国)		4	1・2・3・4					【2022年度不開講】	
	ZS87	特殊講義(海外文化事情Ⅱ・中国)		4	2・3・4					【2022年度不開講】	
	ZS90	特殊講義(海外文化事情Ⅰ・ニュージーランド)		4	1・2・3・4	集中(後期)				パウワー	
	ZS91	特殊講義(海外文化事情Ⅱ・ニュージーランド)		4	2・3・4	集中(後期)				パウワー	
関連科目 スポーツ	ZC01	スポーツ科学A		1	1・2・3・4	前		社・公		①②③伊藤 ④⑤本田 ⑥浦井	—
	ZC02	スポーツ科学B		1	1・2・3・4		後	社・公		—	①②③伊藤 ④⑤本田 ⑥浦井
	ZC03	スポーツ科学C		1	2・3・4	前				伊藤	—
	ZC04	スポーツ科学D		1	2・3・4		後			—	伊藤
全学教育開発センター 特別科目	ZY05	特別講義(TOEIC 演習A)		2	2・3・4	前				小谷	—
	ZY06	特別講義(TOEIC 演習B)		2	2・3・4		後			—	小谷
	ZY07	特別講義(大学・キャリアに役立つ文書表現A)		2	1・2・3・4	前				谷	—
	ZY08	特別講義(大学・キャリアに役立つ文書表現B)		2	1・2・3・4		後			—	谷
	ZY13	特別講義(人間関係コミュニケーション)		2	1	前	後			②小西	⑥小西
	ZY14	特別講義(日本における生活文化の地域差)		2	1・2・3・4					【2022年度不開講】	
	ZY15	特別講義(近代移行期の日本における生活文化)		2	1・2・3・4					【2022年度不開講】	
	ZY16	特別講義(身近な知的財産と法)		2	1・2・3・4	前				小柴	—
	ZY19	特別講義(スポーツ医学)(E21以降)		2	1・2・3・4	前				福本	—
	ZY20	特別講義(スポーツ栄養学)(E21以降)		2	1・2・3・4		後			—	成田
	ZY21	特別講義(スポーツ心理学)(E21以降)		2	1・2・3・4	前				伊藤	—
	ZY22	特別講義(スポーツ指導論)(E21以降)		2	1・2・3・4		後			—	伊藤
	ZY23	特別講義(スポーツ社会学)(E21以降)		2	1・2・3・4		後			—	浦井
	ZY24	特別講義(スポーツマネジメント)(E21以降)		2	1・2・3・4	前				浦井・末吉	—
	ZY25	特別講義(データサイエンス入門)		2	1・2・3・4	前	後			①②足立	③④足立
	ZY26	特別講義(リーダーシップ・キャリアスキル開発)		2	2・3・4	集中(後期)				—	小西
	ZY27	特別講義(データサイエンス初級)		2	2・3・4	前				—	日置

※1 【キャリア形成支援科目】

1. 修得単位は、卒業に必要な単位に算入します。
2. インターンシップⅡの履修はインターンシップⅠの単位修得者に限ります。
3. キャリアデザインはステップ制ではなく、キャリアデザインⅡからの履修も可能ですが、キャリアデザインⅠから履修することが望ましい科目です。
4. 年間履修単位数の制限に含まれます。
5. 不明な点はキャリアセンター(9号館2階)に問い合わせてください。

※2 【海外短期語学研修受講学生適用科目】

1. 年間履修単位数の制限には含まれません。
2. 追再試験の対象とはなりません。
3. 詳細は学生生活課(9号館1階)に問い合わせてください。
4. 春期のプログラムに参加した4年生の単位認定は行いません。
5. 渡航期間と、追再試験の申し込み又は実施期間が重なる場合は、他履修科目の追再試験は受験できません。充分注意してください。



履 修 要 項

2022

法 学 部

帝 塚 山 大 学

【法学部法学科】

科目 区分	必要 単位数	科目 コード	科目名	開講時期形態			単位数		担当者	
				配当 年次	開講期	開講 回数 (週)	必修	選択	前 期	後 期
外国人留学生適用科目	言語リテラシー科目に算入 4単位まで	ZX51	日本語理解(基礎)A	1・2・3・4	前	週1回		1	天満(1)	
		ZX52	日本語理解(基礎)B	1・2・3・4	後	週1回		1		天満(1)
		ZX53	日本語理解(基礎)C	1・2・3・4	前	週1回		1	天満(1)	
		ZX54	日本語理解(基礎)D	1・2・3・4	後	週1回		1		天満(1)
		ZX55	日本語理解(基礎)E	1・2・3・4	前	週1回		1	川添(1)	
		ZX56	日本語理解(基礎)F	1・2・3・4	後	週1回		1		川添(1)
		ZX61	日本語理解(応用)A	1・2・3・4	前	週1回		1	大西(1)	
		ZX62	日本語理解(応用)B	1・2・3・4	後	週1回		1		大西(1)
		ZX63	日本語理解(応用)C	1・2・3・4	前	週1回		1	川添(1)	
		ZX64	日本語理解(応用)D	1・2・3・4	後	週1回		1		川添(1)
		ZX65	日本語理解(応用)E	1・2・3・4	前	週1回		1	川添、天満(1)	
		ZX66	日本語理解(応用)F	1・2・3・4	後	週1回		1		川添、天満(1)
	教養科目 に算入	ZX71	日本事情 A	1・2・3・4	前	週1回		2	川添(1)	
		ZX72	日本事情 B	1・2・3・4	後	週1回		2		川添(1)
		ZX73	日本事情 C	1・2・3・4	前	週1回		2	川添・関・上寫(1)	
		ZX74	日本事情 D	1・2・3・4	後	週1回		2		川添・関・上寫(1)
全学共通科目	キャリア形成 支援科目 ※教養科目 に算入	ZI01	インターンシップ I	2・3・4	前/後	週1回		2	奥村(由)(2)	奥村(由)(4)
		ZI02	インターンシップ II	3・4	前	週1回		2	奥村(由)(2)	
		ZI10	キャリアデザイン I	1・2・3・4	後	週1回		2		谷(2)
		ZI11	キャリアデザイン II	2・3・4	前	週1回		2	谷(2)	
		ZF01	TF(TeZukayama Family)講座	1・2・3・4	前/後	週1回		2	〈岩井・小柴〉(1)	〈岩井・小柴〉(1)
	スポーツ 関連科目 ※教養科目 に算入	ZC01	スポーツ科学 A	1・2・3・4	前	週1回		1	伊藤(3)、本田(2)、浦井(1)	
		ZC02	スポーツ科学 B	1・2・3・4	後	週1回		1		伊藤(3)、本田(2)、浦井(1)
		ZC03	スポーツ科学 C	2・3・4	前	週1回		1	伊藤(1)	
		ZC04	スポーツ科学 D	2・3・4	後	週1回		1		伊藤(1)
		ZV51	スポーツ医学	1・2・3・4	前	週1回		2	福本(貴)(1)	
	スポーツ指導者 適用科目 (G20のみ) ※教養科目に算入	ZV52	スポーツ栄養学	1・2・3・4	後	週1回		2		成田(1)
		ZV53	スポーツ心理学	1・2・3・4	前	週1回		2	伊藤(1)	
		ZV54	スポーツ指導論	1・2・3・4	後	週1回		2		伊藤(1)
		ZV55	スポーツ社会学	1・2・3・4	後	週1回		2		浦井(1)
		ZV56	スポーツマネジメント	1・2・3・4	前	週1回		2	浦井・末吉(1)	
		ZV57	スポーツトレーニング論	1・2・3・4	前	週1回		2	【不開講】	
		ZV58	スポーツの歴史と文化	1・2・3・4	後	週1回		2		【不開講】
		ZY05	(TOEIC 演習 A)	2・3・4	前	週1回		2	小谷(1)	
※その他の科目に算入 特別講義		ZY06	(TOEIC 演習 B)	2・3・4	後	週1回		2		小谷(1)
		ZY07	(大学・キャリアに役立つ文章表現 A)	1・2・3・4	前	週1回		2	谷(1)	
		ZY08	(大学・キャリアに役立つ文章表現 B)	1・2・3・4	後	週1回		2		谷(1)
		ZY13	(人間関係とコミュニケーション)	1・2・3・4	前/後	週1回		2	小西(1)	小西(1)
		ZY16	(身近な知的財産と法)	1・2・3・4	前	週1回		2	小柴(1)	
		ZY25	(データサイエンス入門)※G22のみ	1・2・3・4	前/後	週1回		2	足立(3)	足立(2)
		ZY26	(リーダーシップ・キャリアスキル開発)	2・3・4	集中	15コマ				小西(1)
		ZY27	(データサイエンス初級)※G20・21のみ	2・3・4	前	週1回		2	日置(1)	
		ZY19	(スポーツ医学)※G21・22のみ	1・2・3・4	前	週1回		2	福本(貴)(1)	
		ZY20	(スポーツ栄養学)※G21・22のみ	1・2・3・4	後	週1回		2		成田(1)
		ZY21	(スポーツ心理学)※G21・22のみ	1・2・3・4	後	週1回		2	伊藤(1)	
		ZY22	(スポーツ指導論)※G21・22のみ	1・2・3・4	前	週1回		2		伊藤(1)
		ZY23	(スポーツ社会学)※G21・22のみ	1・2・3・4	後	週1回		2		浦井(1)
		ZY24	(スポーツマネジメント)※G21・22のみ	1・2・3・4	前	週1回		2	浦井・末吉(1)	

・【その他の科目に算入】：そこでの修得単位は「自由選択科目」として卒業所要単位に算入することができる。

アドバンスプログラムの概要

アドバンスプログラムとは？

アドバンスプログラムは、「もっと上を目指したい」という向上心のある学生を学部生の中から選抜し、公務員試験合格やトップ企業への就職のほか、難関資格取得を目指して、学部担当教員からオーダーメイド型の指導を受けるものです。

担当教員が学生個人の資質を見極めて徹底的に指導するほか、時にはチームを編成して協働プロジェクトに取り組むなど、社会人として必要とされる総合力も養成します。早い段階から準備することや様々な体験・経験を積むことで、希望する進路への最短ルートを探すことが可能になります。

身につく3つの力

行動する力	協働する力	表現する力
・リーダーシップ ・論理的思考と行動	・コミュニケーション ・ファシリテーション	・文章表現 ・プレゼン

【求める学生像】

オープンキャンパスのスタッフ、入学準備セミナーや学部教材作成のお手伝いのほか、学内外でのプロジェクト型学習や地域連携の諸行事への参加など、積極的に学生スタッフとして活動する意欲のある学生の参加を期待します！

※詳細についてはガイダンス等でお知らせします。

履 修 要 項

2022

心 理 学 部

大学院 心理科学研究科

帝 塚 山 大 学

【全学教育開発センター科目】（学則別表第7）

（特別講義）※全学部

科目 コード	科目名	配当年次	単位数	開講時期形態	
				期間	1週間の授業回数
ZY05	特別講義（TOEIC 演習 A）	2・3・4	2	前	週1回
ZY06	特別講義（TOEIC 演習 B）	2・3・4	2	後	週1回
ZY07	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現 A）	1・2・3・4	2	前	週1回
ZY08	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現 B）	1・2・3・4	2	後	週1回
ZY16	特別講義（身近な知的財産と法）	1・2・3・4	2	前	週1回
ZY17	特別講義（数理・データサイエンス A）	1・2・3・4	2	前・後	週1回
ZY18	特別講義（数理・データサイエンス B）	1・2・3・4	2	前・後	週1回
ZY19	特別講義（スポーツ医学）	1・2	2	前	週1回
ZY20	特別講義（スポーツ栄養学）	1・2	2	後	週1回
ZY21	特別講義（スポーツ心理学）	1・2	2	前	週1回
ZY22	特別講義（スポーツ指導論）	1・2	2	後	週1回
ZY23	特別講義（スポーツ社会学）	1・2	2	後	週1回
ZY24	特別講義（スポーツマネジメント）	1・2	2	前	週1回
ZY25	特別講義（データサイエンス入門）	1	2	前・後	週1回
ZY26	特別講義（リーダーシップ・キャリアスキル開発）	2・3・4	2	後	集中
ZY27	特別講義（データサイエンス初級）	2・3・4	2	前	週1回

- （注） 1. 上記科目を履修した場合は、卒業に必要な単位に算入されます。
 2. 年間履修単位数に含まれます。
 3. 不明な点があれば、東生駒キャンパス・9号館1階の教学支援課（学部共通）に問い合わせてください。

（外国人留学生適用科目）※全学部

科目 コード	科目名	配当年次	単位数	開講時期形態	
				期間	1週間の授業回数
ZX51	日本語理解（基礎）A	1・2・3・4	1	前	週1回
ZX52	日本語理解（基礎）B	1・2・3・4	1	後	週1回
ZX53	日本語理解（基礎）C	1・2・3・4	1	前	週1回
ZX54	日本語理解（基礎）D	1・2・3・4	1	後	週1回
ZX55	日本語理解（基礎）E	1・2・3・4	1	前	週1回
ZX56	日本語理解（基礎）F	1・2・3・4	1	後	週1回
ZX61	日本語理解（応用）A	1・2・3・4	1	前	週1回
ZX62	日本語理解（応用）B	1・2・3・4	1	後	週1回
ZX63	日本語理解（応用）C	1・2・3・4	1	前	週1回
ZX64	日本語理解（応用）D	1・2・3・4	1	後	週1回
ZX65	日本語理解（応用）E	1・2・3・4	1	前	週1回
ZX66	日本語理解（応用）F	1・2・3・4	1	後	週1回
ZX71	日本事情A	1・2・3・4	2	前	週1回
ZX72	日本事情B	1・2・3・4	2	後	週1回
ZX73	日本事情C	1・2・3・4	2	前	週1回
ZX74	日本事情D	1・2・3・4	2	後	週1回

履 修 要 項

2022

現代生活学部

食物栄養学科
居住空間デザイン学科

帝 塚 山 大 学

4. 特別講義・スポーツ関連科目

(1) 特別講義

科目 コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZY05	特別講義（TOEIC 演習 A）	2 3 4	前	週 1 回	2
ZY06	特別講義（TOEIC 演習 B）	2 3 4	後	週 1 回	2
ZY07	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現 A）	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZY08	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現 B）	1 2 3 4	後	週 1 回	2
ZY16	特別講義（身近な知的財産と法）	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZY17	特別講義（数理・データサイエンス A）	1 2 3 4	前 又は 後	週 1 回	2
ZY18	特別講義（数理・データサイエンス B）	1 2 3 4	前 又は 後	週 1 回	2
ZY19	特別講義（スポーツ医学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	前	週 1 回	2
ZY20	特別講義（スポーツ栄養学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	後	週 1 回	2
ZY21	特別講義（スポーツ心理学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	前	週 1 回	2
ZY22	特別講義（スポーツ指導論）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	後	週 1 回	2
ZY23	特別講義（スポーツ社会学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	後	週 1 回	2
ZY24	特別講義（スポーツマネジメント）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	前	週 1 回	2
ZY25	特別講義（データサイエンス入門）	1	前 又は 後	週 1 回	2
ZY26	特別講義（リーダーシップ・キャリアスキル開発）	2 3 4	後期集中		2
ZY27	特別講義（データサイエンス初級）	2 3 4	前	週 1 回	2

(2) スポーツ関連科目

科目 コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZC01	スポーツ科学 A	1 2 3 4	前	週 1 回	1
ZC02	スポーツ科学 B	1 2 3 4	後	週 1 回	1
ZC03	スポーツ科学 C	2 3 4	前	週 1 回	1
ZC04	スポーツ科学 D	2 3 4	後	週 1 回	1

特別講義及びスポーツ関連科目の注意事項

- ① 上記科目を修得した場合は「全学教育開発センター科目」として卒業に必要な単位に算入されます。
- ② 上記科目は東生駒キャンパスで開講されます。
- ③ 年間履修単位数に含まれます。
- ④ 不明な点があれば、東生駒キャンパスの教学支援課（学部共通）（0742-48-9429）に問い合わせてください。



履 修 要 項

2022
教 育 学 部
こども教育学科

帝 塚 山 大 学

3. 特別講義科目

科目 コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZY05	特別講義（TOEIC 演習 A）	2 3 4	前	週 1 回	2
ZY06	特別講義（TOEIC 演習 B）	2 3 4	後	週 1 回	2
ZY07	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現 A）	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZY08	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現 B）	1 2 3 4	後	週 1 回	2
ZY16	特別講義（身近な知的財産と法）	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZY17	特別講義（数理・データサイエンス A）	1 2 3 4	前 又は 後	週 1 回	2
ZY18	特別講義（数理・データサイエンス B）	1 2 3 4	前 又は 後	週 1 回	2
ZY19	特別講義（スポーツ医学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	前	週 1 回	2
ZY20	特別講義（スポーツ栄養学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	後	週 1 回	2
ZY21	特別講義（スポーツ心理学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	前	週 1 回	2
ZY22	特別講義（スポーツ指導論）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	後	週 1 回	2
ZY23	特別講義（スポーツ社会学）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	後	週 1 回	2
ZY24	特別講義（スポーツマネジメント）	1 2 3 4 (2021年度生以降)	前	週 1 回	2
ZY25	特別講義（データサイエンス入門）	1	前 又は 後	週 1 回	2
ZY26	特別講義（リーダーシップ・キャリアスキル開発）	2 3 4	後期集中		2
ZY27	特別講義（データサイエンス初級）	2 3 4	前	週 1 回	2

特別講義科目の注意事項

- ① 上記科目を修得した場合は「全学教育開発センター科目」として卒業に必要な単位に算入されます。
- ② 上記科目は東生駒キャンパスで開講されます。
- ③ 年間履修単位数に含まれます。
- ④ 不明な点があれば、東生駒キャンパスの教学支援課（学部共通）（0742-48-9429）に問い合わせてください。

4. スポーツ指導者適用科目（2019・20年度入学者対象）

科目 コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZV51	スポーツ医学※	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZV52	スポーツ栄養学※	1 2 3 4	後	週 1 回	2
ZV53	スポーツ心理学※	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZV54	スポーツ指導論※	1 2 3 4	後	週 1 回	2
ZV55	スポーツ社会学※	1 2 3 4	後	週 1 回	2
ZV56	スポーツマネジメント※	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZV57	スポーツトレーニング論 【本年度不開講】	1 2 3 4	前	週 1 回	2
ZV58	スポーツの歴史と文化 【本年度不開講】	1 2 3 4	後	週 1 回	2

※は、スポーツ指導者の資格申請に必要な科目です。

帝塚山大学データサイエンス教育推進委員会規程

制定 令和3年9月24日

(設置)

第1条 本学に帝塚山大学データサイエンス教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 推進委員会は、本学のデータサイエンス教育に関して、次の事項について審議し、それを推進することを任務とする。

- (1) データサイエンス教育の調査研究に関する事項
- (2) データサイエンス教育の基本方針に関する事項
- (3) データサイエンス教育の導入及び展開に関する事項
- (4) データサイエンス教育の外部組織との連携に関する事項
- (5) データサイエンス教育の推進に係る自己点検・評価・改善に関する事項
- (6) その他データサイエンス教育全般に関する事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 副学長（教学担当）
- (2) 学長補佐（データサイエンス教育担当）
- (3) 全学教育開発センター長
- (4) 情報教育研究センター長
- (5) 学部・全学教育開発センターから選ばれた各1名の教員
- (6) 教学支援課長
- (7) 情報教育研究センター課長
- (8) その他学長が必要と認めた本学教職員若干名

(任期)

第4条 前条第1項第1号、第2号、第3号、第4号、第6号及び第7号の委員の任期は、その職にある期間とし、異動が生じた場合、後任者が委員を引き継ぐものとする。

2 前条第1項第5号及び第8号の委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 推進委員会に委員長を置き、委員のうちから学長がこれを指名する。

(運営)

第6条 委員長は、推進委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要に応じて委員以外の者に委員会への出席を求め、その報告又は意見を聞くことができる。

3 その他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会においてこれを定める。

(幹事)

第7条 推進委員会に幹事を置き、教学支援課長をもってこれに充てる。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、推進委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、令和3年9月24日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

帝塚山大学データサイエンス教育推進委員会規程

制定 令和3年9月24日

(設置)

第1条 本学に帝塚山大学データサイエンス教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 推進委員会は、本学のデータサイエンス教育に関して、次の事項について審議し、それを推進することを任務とする。

- (1) データサイエンス教育の調査研究に関する事項
- (2) データサイエンス教育の基本方針に関する事項
- (3) データサイエンス教育の導入及び展開に関する事項
- (4) データサイエンス教育の外部組織との連携に関する事項
- (5) データサイエンス教育の推進に係る自己点検・評価・改善に関する事項
- (6) その他データサイエンス教育全般に関する事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 副学長（教学担当）
- (2) 学長補佐（データサイエンス教育担当）
- (3) 全学教育開発センター長
- (4) 情報教育研究センター長
- (5) 学部・全学教育開発センターから選ばれた各1名の教員
- (6) 教学支援課長
- (7) 情報教育研究センター課長
- (8) その他学長が必要と認めた本学教職員若干名

(任期)

第4条 前条第1項第1号、第2号、第3号、第4号、第6号及び第7号の委員の任期は、その職にある期間とし、異動が生じた場合、後任者が委員を引き継ぐものとする。

2 前条第1項第5号及び第8号の委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 推進委員会に委員長を置き、委員のうちから学長がこれを指名する。

(運営)

第6条 委員長は、推進委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要に応じて委員以外の者に委員会への出席を求め、その報告又は意見を聞くことができる。

3 その他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会においてこれを定める。

(幹事)

第7条 推進委員会に幹事を置き、教学支援課長をもってこれに充てる。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、推進委員会及び大学協議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和3年9月24日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

データサイエンス・リテラシープログラム（取組概要）

目的

近年のIT技術の進歩に伴い、社会ではこれまでと比較にならない量のデータが蓄積され、誰もがアクセスできる環境が整いつつある。こうした「ビッグデータ」を活用・分析し、有用な知見を得る営みである「データサイエンス」について、数学的な詳細にこだわることなくその本質を理解し、重要性や将来性、おもしろさを理解することを目的とする。

学修成果

- 身の回りにあるデータやAI(人工知能)の利用例を知り、データサイエンスのおもしろさを実感する。
- 社会に出た際、自らデータを分析したり、AIツールを活用したりする能力を身につける。
- 社会における様々な応用事例を知り、データ活用の際の倫理面およびセキュリティ面における重要性を理解する。

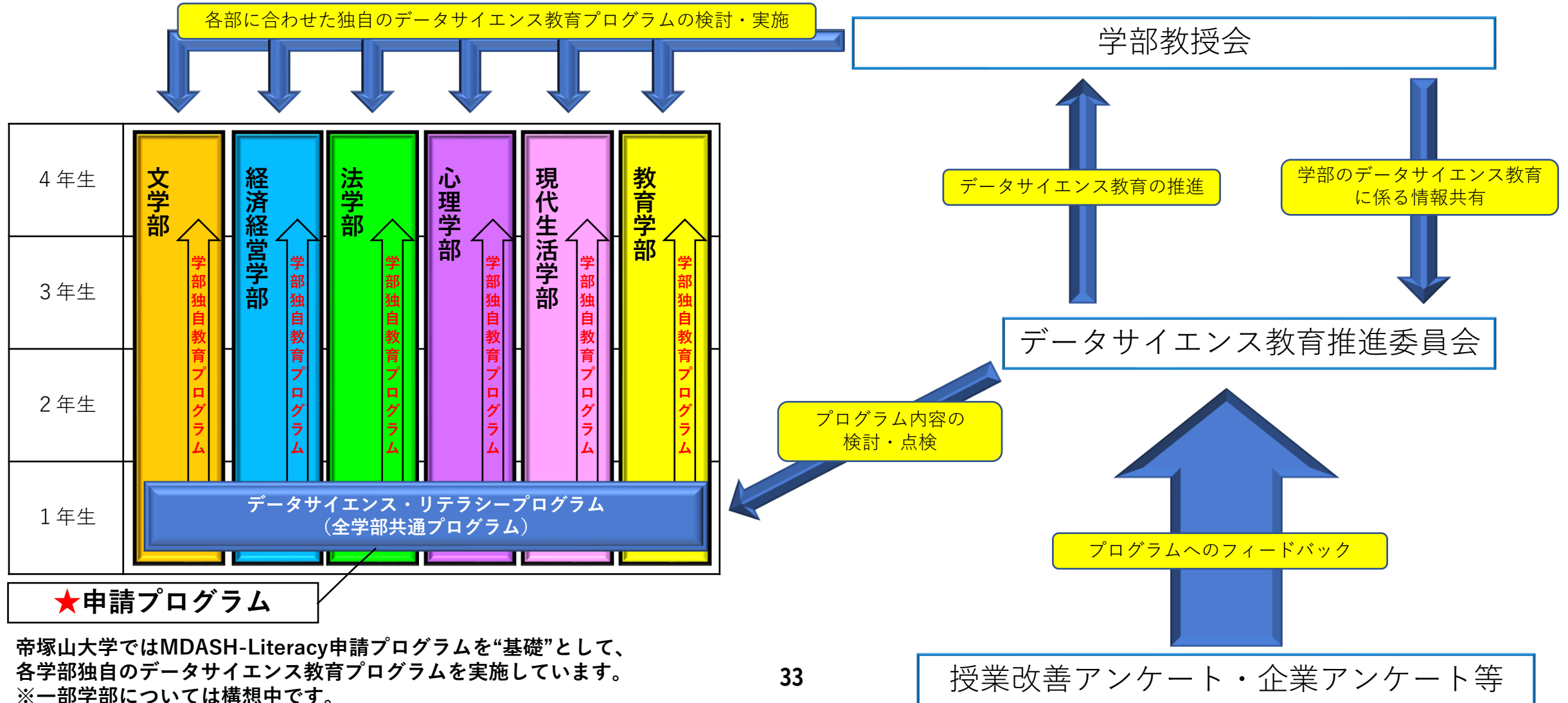
修了要件

特別講義（データサイエンス入門）（2単位）の単位修得【全学部対象】

プログラム内容

- データサイエンスの概要を知り、コンピュータやインターネットなどの歴史からデジタル社会の現状を理解する。
- ビッグデータやディープラーニングと言った専門用語について学ぶとともに、データサイエンスやAI(人工知能)の最新動向を知ることで、どこでどのような技術が使われてるかを理解する。
- 統計学の基礎を学び、平均値、中央値、分散と標準偏差、散布図といったデータの可視化方法を学ぶとともに、それらを利用する上で留意すべきこと、利用する際に必要となる倫理感や管理責任、アルゴリズムの公平性などについて理解する。

帝塚山大学におけるデータサイエンス教育の推進体制

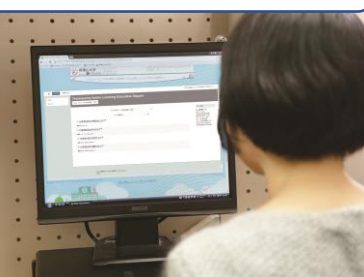


帝塚山大学におけるICT教育環境の整備状況

ノートPC自動貸出・
返却システム



授業支援システム「TALES」



オンデマンドプリンター



Wi-Fi

全館完備

帝塚山大学では、データサイエンス教育をはじめとしたICT教育を推進するため、東生駒・学園前両キャンパスに合計1,200台を超えるPCを設置しています。また、約800gの最軽量ノートPCの自動貸出・返却システムの導入やオンデマンドプリンターの設置、授業支援システム「TALES」を用いた予習・復習やオンライン授業の実施など学生の学習環境整備を順次進めています。